

2009-2010

日本語・日本文化
研修留学生

レポート集

秋田大学

目次

カーチャ・グリコ（出身・ベラルーシ）

結婚と幸せ

結婚は、人を幸せにするものだろうか。幸せな結婚生活を送るために何が必要だろうか

金 宣（出身・韓国）

自分の仕事と夢

今の仕事は自分がずっと望んでいた事か。私の夢は何であり、どんな姿勢で前に向けばいいのか

牲川 波都季（出身・日本）

おわりに

結婚と幸せ

「結婚は、人を幸せにするものだろうか。

幸せな結婚生活を送るために何が必要なのだろうか」

秋田大学

教育文化学部

カーチャ グリコ

目次

1. 作者の考え.....	2
1－1 幸せな結婚生活.....	2
1－2 結婚のメリット.....	2
2. 幸せを結婚で探す.....	3
2－1 心の支え.....	3
2－2 仕事を辞めて、外国へ.....	5
3. 結婚への道.....	6
3－1. 受け入れることの大切さ.....	6
3－2 現実を見て、結婚する.....	8
4. 結婚の姿.....	9
4－1 国際結婚.....	9
4－2 大きな家族.....	12
5. 結論.....	14

1. 作者の考え

1-1 幸せな結婚生活

私は日本へ留学する前にずっと家族と一緒に住んだ。秋田へ来てから、初めて一人暮らしを始めた。すると一人で過ごす時間が増えてきた。一人暮らしに慣れていないので、最初は辛かった。大学から家に帰って、誰もいないと寂しい。そして一人で料理を作って食べた。東京に行った時友達の寮に止まった。友達の部屋が狭いため、台所がなかった。しかし友達と話した時それは問題ではないということが分かった。友達は共通台所を利用して、他の人と一緒に色々な料理を作ったり、食べたりするので、楽しい。そしてお互いに料理のレシピを教えることで、友達は日本や中華料理が作れるようになった。その時独り暮らしすることより、親しい人と一緒に住んだほうが良いと思うようになった。一人暮らしを始めて、やっぱり一人の生活はさびしいと思った。

人は幸せを探しながら、生きているものだ。幸せになる方法がいっぱいあって、人によって各々だ。結婚したら幸せになれるという考えを持っている人が少なくないそうだ。私もこの考え方に賛成だ。しかし結婚は、本当に人を幸せにするものだろうか。そして結婚した瞬間に幸せが始まるわけでないので、「幸せな結婚生活を送るために何が必要なのだろうか」ということが気になったので、このテーマを選んだ。

1-2 結婚のメリット

結婚の最大のメリットは人生の喜びや苦しみをシェアできることだと思う。悲しい時や楽しい時家族がいれば、人生がもっと豊かになるのではないだろうか。一人で人生の困難を乗り越えるのは簡単ではないと思う。何か苦しい時や困った時に一番、親身になって守ってくれるのはやはり「家族」という存在だ。もちろん困った時友達や職場など周りの人は助けてくれますが、やはり家族とは同じ感覚ではない。ある程度の年齢までは親がその役目を果たしてくれますが、そんな親も老いてくると今度は自分が逆に親や子に対して守っていく立場へと変化していくものだ。

私は結婚したい理由は幸せになりたいからだ。結婚することで私の人生がもっと豊かになり、より良い実りある人生を2人で共に過ごせると思うし、生きがいを見出せると思う。

2. 幸せを結婚で探す

YさんとNさんは大学を卒業して、ちゃんと仕事をしている人たちだ。仕事はおもしろかったし、給料もよかったけど、生活が充実するため、何か足りない気がすると言った。二人は結構長い時間一人暮らししているので、一人の人生はやっぱり寂しいと言った。YさんとNさんは結婚希望が強いため、今は恋人になるだけでなく、将来に結婚相手になるべき人を探しているところだ。結婚することで、もっと幸せになれると思うから、結婚したいだ。

2-1 心の支え

名前 Yさん
性別 男
年齢 28歳

Yさんは結婚希望が強いので、今年から婚活を始めた。しかしYさんはずっと前から結婚したいと思わなかった。将来に絶対に結婚すると思った瞬間はアメリカに留学した時だった。Yさんは家族と離れて、外国で独り暮らしをしたことで、家族の必要さが分かるようになった。アメリカから帰ってから独り暮らしを続けた。Yさんビジネスマンとして働きながらほしいものがほとんど手に入れた。Yさんは仕事や収入もよかったし、車や自分のアパートもあったし、Yさんは自分の人生に大満足だと思った。しかし私はYさんに「今は幸せですか」と聞いた時、「そうかな。一人の人生はやっぱり寂しい。誰かに愛をされたい、仕事から家に帰る時御苦労さんと言われたい。そして相手に何かを返したいと思う。結婚することで僕の人生がもっと幸せになる。」という答えが出た。Yさんが結婚したい理由は結婚をする事で、より良い実りある人生を2人で共に過ごせると思うし、家族、友人に祝福して頂ける事で、生きがいを見出せる。そして、自分が生きた軌跡を自分の分身である子供達に託せるからである。

Yさんはアメリカに2年間留学することで、国際結婚してみたいと思うようになった。

Yさんは恋愛結婚と同時に国際結婚にも大賛成だ。「別に、日本人が日本人と結婚をしなけばいけないという法律はない。出会いは世界にも存在するから。ただし、お互いが文化の違い、言語を理解して分かり合える努力は大切だ」とYさんの考えだ。

幸せな結婚生活を送るために何が必要だと思いますか。

1. 金銭感覚が合致する。→浪費夫あるいは妻であるならば、いずれ離婚するのは目に見える。
2. 夫婦の時間を大切にする。→2人の時間を作らなければ何故夫婦と呼べるのだろうか。
3. 寛大な心を持てる。→お互いに人間であり欠点はある。そこを好きにならなければ夫婦になっても離婚してしまうだろう。
4. 結婚に期待しすぎず現実主義の点を持っている。→理想論ばかり見て現実を見なければ結婚後の生活にショックを受ける。
5. 夫を大切にする。→基本的なこと、お互いがお互いを補完しあわないと結婚の意味がない。

大切なことは、結婚相手が一般的な常識があるかどうかが大切である。例えば、彼氏または彼女の家に伺ったら「お邪魔します」とか「ありがとうございます」とか、挨拶が出来るかどうか大切な事と僕は考える。

どうして結婚は人を幸せにするものだと思いますか。

色々な理由がある。まず寂しくない。仕事から帰って家で家族が待っていてくれると嬉しい。そして親が喜ぶ。結婚することで何よりも心の支えができる。やる気がでない時好きな人がいれば、応援してくれるでしょう。そして辛い時や悲しい時好きな人はほめ言葉を言ったり、おいしい料理を作ったり、自分の悩みを聞いたりしてくれるので、心を支えるために何よりも効き目があるのではないだろうと思う。

自分のコメント：

私はYさんのように家族を離れて、外国へ留学して、独り暮らしの生活を始めたきっかけで、家族の大切さについて考えるようになった。辛い時や悲しい時親身になって守って、心を支えてくれるのは家族という存在だと思った。両親はいつも私を支えてくれたので、これは当たり前なことだと考えるようになってしまった。日本に来て、自分の両親が私のために今までやってくれたことを認識して、心から深く感謝している。

Yさんと結婚に関して共通点が多いので、Yさんの話は共感を持って聞くことができた。幸せな結婚生活を送るために何が必要なことに関しても、私は大きな共感を持った。

2-2 仕事を辞めて、外国へ

名前 Nさん
性別 女性
年齢 20代

私はバイトを通じてNさんと知り合った。Nさんは外国語を勉強することが好きで、今年に英語が自由に話せるようになるということを目指して、一生懸命頑張っている。私は「英語を何のために勉強しているか」Nさんに聞いた時Nさんは外国人と結婚したいからと言われた。インタビューをした時Nさんはヨーロッパに住みたいということが分かった。なぜかという「町がきれいで、古い建物がいっぱいあるので、この所に住んだらいいと思うからだ」と言った。Nさんと話した時結婚することで、幸せになりたいし、自分の夢も実現したいと思った。Nさんの一つの夢は専業主婦になるという夢だ。それでNさんは結婚してから、できれば、仕事を辞めたいと言った。そのわけは自分の時間がほしいからだ。そしてNさんは自分に「自分が生きていて一番したいことはこのことなの？」と聞いた時「いいえ」という答えが出た。Nさんにとって一番大事なのは仕事じゃなくて、自分の家族だ。家族のために頑張りたいと言った。Nさんが結婚したい理由は幸せな家庭を作りたいからだ。

幸せな結婚生活を送るために何が必要だと思いますか。

- ❖ お互いに助け合うこと。相手が忙しい時、自分ができることをやってあげるのが大事だと思う。
- ❖ 子供を作ること。
- ❖ 我慢。
- ❖ 他人同士なので、お互いに干渉しすぎないこと。
- ❖ 家事、掃除などの分担を守る。
- ❖ お互いのプライバシーを守る。

どうして結婚は人を幸せにするものだと思いますか。

二人で将来設計を描くのは楽しい。そして結婚することで社会的に大人として認めもらえる。後は子供ができて、二人で子供の成長を見守るのは幸せだと思う。

困った時助けてくれる人がいるのは何よりもありがたいことだ。たとえば結婚したら病気で寝込んだ時看病してくれる人がいる。

自分のコメント

家事と仕事を両立するのは難しいと思って、仕事があまり面白くないため、結婚して、仕事を辞める女性もいるし、結婚しても、仕事を続けている女性もいるし、辞めたいけど辞められない女性もいる。辞めない理由は色々ありますが、理由の中で一つは金銭的な問題がある。私は結婚して、仕事を続けたいと思う。そのわけは社会との関わりを持っていたい、社会的に認められたい、家族以外の人も役に立ちたい、好きな仕事をやりたいからだ。そして私の両親が離婚したことで、分かったのは女性が働かないと離婚してから、大変な状態になってしまうということだった。それとも現代において不景気のせいで、夫は仕事を失う恐れがある。二人が働いたら、仕事の大変さがお互いに分かるし、ほしいものは早く手に入れるので、共働きがいいのではないだろうかと思う。

私にとって仕事と家族は、植物にとって光と水のようなものだと思う。ただ結婚しただけで、自分の人生は充実しないと思う。逆に好きな仕事があっても、家族がいないと、幸せにならないと考えられる。私は仕事をするため自分を支える家族であり、家族を養うには収入を得ることやある程度の金銭的余裕があることのための仕事だという考え方を持っている。仕事と家族の間のバランスをうまくとれば、幸せな人生を送ることができるのではないだろうかと思う。

3. 結婚への道

結婚した瞬間や好きな人と一緒に住み始めた瞬間に幸せが始まるわけでない。幸せになれるように二人が努力する必要があると思う。結婚は生活そのものだ。献立を考えたり、料理を作ったり、お風呂掃除したり、洗濯機をまわしたり、ゴミを捨てたりすることなどだ。毎日決められたことが繰り返されるものだ。結婚に大切なのは二人で一緒に生活できるかということなので、結婚する前に同棲してみたほうが良いと思う。何故ならばお互いの見えなかった部分、嫌いな部分が見えるからだ。同棲を通じて私自身にとって結婚相手としての準備を経験できる。同棲とは疑似結婚といえれば悪い言い方かもしれないが、貴重な経験を結婚前に出来る大切なものである。

KさんとRさんは実際に同棲してみた人たちなので、自分の考え方や経験について教えてくれた。結婚への道は簡単ではないけど、楽しい。

3-1. 受け入れることの大切さ

名前 Kさん
性別 女
年齢 20代

Kさんは将来に優しくて裏切らない人と結婚したいと言った。結婚したい理由は幸せになりたいし、家族を作りたいからだ。

Kさんは結婚をするということは、相手だけでなく、相手の家族とも一生の付き合いになるという考えを持っている女性なので、彼の家族に気にするそう。特にお母さん。Kさんは「お母さんから色々言われるのは怖い。例えば料理、掃除などだ。もし一緒に暮らすことになったら、彼のお母さんたちと仲がよくして欲しいからお母さんが怖い人だったら大変だと思う」と言った。私も結婚することで双方の親や兄弟との関係が始まると思う。女性の場合、よくあるのは彼の母親とのトラブルだ。そしてこのトラブルは相手との喧嘩につながっているのではないだろうか。誤解の原因になってしまうことも珍しくはない。Kさんと話したことで私も結婚して、彼の家族のメンバーと仲がよくして欲しいので、相手の家族をちょっと気にすると思うようになった。そして自分の家族だけでなく、相手の家族も大事にするべきだと思った。

幸せな結婚生活を送るために何が必要だと思いますか。

- 信頼関係
- お互いがお互いを思いやること。→お互いに相手のことを考えて、行動すること。
- 同棲

Kさんは実際に同棲してみたので、私に色々なことを教えてくれた。私はそういう貴重な経験がないため、耳を傾けた。Kさんは「結婚する前に、同棲したほうがいい。何故ならば結婚で大切なのは一緒に生活できるかということだと思うからだ。しかし同棲してみないと一緒に生活できるかどうかということが分からない。同棲しないで、結婚したら、びっくりさせることが多いのではだろうかと思う。例えばその人は部屋がすごくきたないとかその人は変な隠された癖があるなどだ。将来にがっかりしないように同棲してみて、相手のいい所も悪い所もちゃんと理解してから、結婚すべきだと私の考えだ」と言った。

どうして結婚は人を幸せにするものだと思いますか。

尊敬できる人のそばにいられることが幸せだ。同棲してみて、一番よかったのは精神的に安定したことだ。自分のことを“一番”だと言ってくれる人が世の中にいたら安心感が大きい。そしてKさんは「今の恋人は私の宝だ」と語った。しかし恋人の存在そのものだけでなく、一緒に過ごしてきた時間も宝物。気が合う人と過ごしているわけだからいつも楽しいし、毎日笑っているばかりだそう。好きな人と一緒にいられるのは、やはり幸せなことではないだろうか。

自分のコメント

Kさんと話したことで幸せは、二人の努力で築いていくものだと思った。自分を受け入れ、相手や相手の家族、ライフスタイルを受け入れ、そして自分のことを受け入れてもらったら、幸せな結婚生活を送ることができるのではないのでしょうかと思うようになった。そして相手のことをちゃんと受け入れるように、同棲してみる必要があると感じた。

3-2 現実を見て、結婚する

名前 Rさん
性別 男
年齢 20代

Rさんはできれば25歳までに結婚したいと言った。一般的に日本に30歳の時に結婚するのは全然遅くはないけど、Rさんにとってちょっと遅いそうだ。なぜかという自分年を取っていて、子どもがまだ小さかったら、子どもがちょっと怖いのではないかという考え方を持っているからだ。そしてRさん例を出した。「例えば親が子どもの授業を見に行くでしょう。自分の子どもを見に行った時に周りの親よりも自分がやっぱり年を取っていると、君の家はおじいちゃん来るみたいになって、よくないかと考えるので30歳までに結婚したいだ」とRさんは言った。

Rさんは同棲してみた男の人なので、結婚に関して現実主義の点を持っている。それで同棲や自分の経験について色々を教えてくれた。

同棲について

Rさんは「結婚で一番大切なのは一緒に生活できるかということだと思うので結婚する前に同棲したほうが良い。一緒に生活してみないとその人の内面は分からないと考える。住む場所を一緒にすることで、生活相手としての新たな一面が見えてくる。同棲の理由は千差万別だ。好きな人といつも一緒にいられたい人もいるし、互いの生活が忙しくても、顔を見る機会が増やせる人もいる。僕の場合同棲している理由は好きな人といつも一緒にいられたいからだ」と語った。Rさんと話したことで人生のパートナーを慎重に選びたかったら、同棲してみたほうが良いということが分かった。

恋愛相手と結婚相手は違う

「好きだけど結婚してはいけないと。結婚は生活そのものだ。献立を考えたり、料理を作ったり、お風呂掃除したり、洗濯機をまわしたり、ゴミを捨てたりすることなどだ。毎日決められたことが繰り返されるものだ。恋愛から結婚への移動するのが大事だと思う。」とRさんの考えだ。

自分のコメント：

親と子どもの間の年の差は大げば、大きいほど誤解が生じやすいのではないのでしょうかと私は思った。

そして結婚にはよい所もあるし、悪い所もあるので結婚に期待しすぎず現実主義の点を持っているのが大事だと思った。理想を高すぎる持ったら、結婚してから、結婚に対する満足度が低くなってしまい、がっかりする可能性が高いと考えた。現実と理想のギャップを感じないように、人生のパートナーを慎重に選べるように同棲してみる必要があると感じた。

4. 結婚の姿

現実と理想の間にどんなギャップがあるかということが気になって、結婚している人たちに聞いてみた。質問の中で「結婚して幸せですか」、「幸せな結婚生活を送るために何が必要なのだろうか」、「どうして結婚は人を幸せにするものだと思いますか」という質問が出た。幸せな国際結婚しているWさんと大きな家族を持っているMさんの意見を聞いてみよう。

4-1 国際結婚

Wさん ウクライナ人の女性。

Gさん 日本人。Wさんのご主人

年齢 40代

Wさんは以前から国際結婚をしたいと思っていたけど、なんとなく憧れがあった。Wさんは国際結婚をしてみたいと思った瞬間はアメリカ人と結婚した一番親しい友達の話を聞いた時だった。友達の結婚生活は充実したので、Wさんは自分も国際結婚をしてみたいと思うようになった。それで国際結婚のために婚活を始めた。外国人と出会うために努力したことはインターネットで探したということだった。その結果でインターネットを通じて今のご主人と知り合った。

Wさんは今のご主人と結婚する前ウクライナで好きな人からプロポーズされたことがあった。その人はハンサムで、お金持ちなので、女性にすごくもてた男の人だった。彼は結婚しても、信義を簡単に破る男の人のタイプだったので、Wさんは彼のプロポーズを断った。その理由は浮気されたら、許すことができないからだった。

Wさんは日本語が全然分からなかったから、最初に二人で話す言語は英語だった。メールや手紙のやりとりをするにつれて、Gさんに好きになった。実際に会う前に半年ぐらい立った。Wさんの出身地はウクライナの小さい町だったから、二人はキエフに会うことにした。キエフに二人はすごく楽しい時間を過ごしたからWさんの心が動かされた。その時Wさんは彼と結婚したいと意識された。もう半年が立ってから、二人は結婚した。Wさんは結婚したのは30代の時だった。Wさんは結婚することで、親に対して安心させてあげた。

結婚してから、Wさんは日本へ引っ越しした。国が違ったため、結婚する前に同棲しなかった。Wさんは日本語があまり分からなかったし、友達や仕事もなかったし、食べ物や文化も違ったので、最初はすごく大変だったと言った。しかし結婚してから、一番気になったのは「言葉の壁」だった。つまり、自分が言うことが正確に伝わっているか、相手の言うことをきちんと理解できているのかという問題だった。または、Wさんは大学を卒業してから、ずっと働いたので、日本でも働きたいと思った。しかし日本で働くために日本語能力が必要だ。それでWさんは日本に住むことになったので、日本語を勉強するべきだと思って、日本語に挑戦してみた。

最初にWさんは日本語が得意ではない、言いたいことがうまく日本語で伝えられないことなど、たくさん悩んだ。しかし時間が立つにつれて、Wさんは日本語が分かるようになり、人生がもっと豊かになってきた。「外国に暮らし、日本語で話す私の状況を、精神面も含めて、理解し、尊重し、思いやりの気持ちをもって歩み寄ってくれる主人がいたので、言葉の壁を乗り越えることができた」とWさんは言った。言葉の問題をうまく解決することで、「言葉の壁」は「恋愛の壁」にはならないところか、二人の絆はもっと深まった。そしてWさんは異文化間で頑張っている自分や主人を誇りに思った。Wさんは特に家族のために仕事熱心な夫を誇りに思う。逆にGさんは日本語修得に努力している妻を誇りに思う。

国際結婚生活を充実したものにする為には、あなたは何かが必要だとお考えですか。

最初国際結婚とは、異文化との遭遇だ。目には見えない、自分でも気づかない異文化ストレスというものが出てくる。これを甘く見てはいけない。食べ物、生活習慣、カルチャーギャップを受け入れる必要がある。

そしてお互いに助け合うことも大事だと思う。国際結婚では、夫婦のどちらかが必ず母国を離れて、異文化の中で暮らさなければならないという宿命がある。どうしても母国に住みたい側がサポートしなければならない。例えば生活上や法律上の手続き、語学修得の協力などです。外国へ引っ越しする方にとっては異国に住む覚悟がある必要だ。それは、親の死に目に遭えないかもしれない、家族が大変な時にそばにいられないかもしれない、友だちにもう会えないか

もしれない、母国は当分帰れないかもしれない。そのような宿命がある覚悟があるからこそ、お互いの家族を大事にするし、パートナーを大切に思えるのではないのでしょうかと思う。

後は感謝することだ。いつも、どんな小さなことでも感謝して、謙虚な気持ちを持ち続ける。

結婚して、お気づきになった事は何でしょうか。

実は結婚する前に国際結婚と普通結婚は違うと思ったけど、結婚してから「そんなに変わらない」と思うようになった。それで恋があれば、問題はどんなに難しくても、協力して乗り越えるでしょう。

Wさんは結婚生活に満足している。もし再度結婚をするならば、同じ人と結婚したいとWさんは言った。その理由はお互いによく理解するからだ。

自分のコメント：

外国人と知り合いたいなら、外国へ行くのが一番いい方法だと私は思った。ただし、外国に行っただけからといっても必ずしもいい出会いがあるとは限らないということが分かった。私にとって出会い系サイトというといかがわしいイメージがあったけど、Wさんと話したことでちゃんと結婚情報サービスや結婚相談所のサイトもたくさんあると分かった。Wさんやアメリカ人と結婚したWさんの友達はインターネットを利用して国際結婚婚活した。外国人と出会うためにインターネットで探した人は少なくないそうだ。インタビューの時Wさんは「もしカーチャも外国人と結婚したかったら、このサイトお勧めする」と言った。私はまだ若いので、25歳まで結婚するつもりはない。しかし出会いを広げるために将来に利用してみるかもしれない。

Wさんと話した時「言葉の壁」は永遠に存在するものだと思うようになった。Wさんは日本に8年間ぐらい住んでいても、今でも分からない言葉やよく通じない表現が時々出てくると言った。どんなに頑張っても、相手の言語を母国語と同じくらいのレベルで話せるのは無理だ。しかし「言葉の壁」があっても、その壁を低くすることができるということが分かった。言いたいこと、伝えたいことがあったら、途中であきらめしないで、最後まで頑張るのは大事だと思った。

そして食べ物、生活習慣、カルチャーギャップを受け入れる必要があると思った。Wさんは日本料理が上手で、色々な日本の習慣がよく知っています。逆にGさんはウクライナ文化についてたくさん学んだ。宗教が違ってても、二人はいつも一緒にクリスマス、イースターなどお祝いする。

そして二人の家は日本人の家と違って、ウクライナに流行っているインテリアのデザインと伝統的な日本のインテリアのデザインを混ぜて立派な家だ。

Wさんの充実した結婚生活を見て、私も国際結婚してみたいと思った。

4-2 大きな家族

名前 Mさん
性別 男
年齢 70代

Mさんは大きな家族を持っている男の人である。Mさんは自分の家族を誇りに思うようだ。お正月にMさんの家族と一緒に過ごすのを誘っていただいたので、Mさんの家を訪ねた。Mさんは子供たちが4人がいて、孫が5人がいる。大事なお祭りの時に家族のみんなが集まるのは伝統みたいなので、私がMさんの家に邪魔した時子供たちの夫婦、孫をあわせて15人ぐらいいた。すごくにぎやかで、楽しかった。私はこんなに大きな家族は映画だけにあると思ったため、実際に見て、すごく感動した。みんなは中がよくて、素晴らしい家族だと私は思った。

仕事と結婚の関係

Mさんは結婚したのは30代の時だ。結婚する前に今の奥さんと5年間ぐらい付き合った。もっと早く結婚したかったけど、できなかった。Mさんはどうして早く結婚できなかったのを聞いた時に下記の答えが出た。

「仕事が、結婚のタイミングに影響を与えると思う。男性は結婚するために、ある程度の経済的な自信を持つ必要とする。結婚するからには、相手を幸せにしたい。それは、男性のいつわらざる心だと思う。そのためには、仕事である程度成功して『もう食べていくことができる』と思える大事だ。僕は25歳の時仕事で不安な気持ちを抱えていたままでは、結婚に踏み切ることができなかった。生活力が十分にあってから、結婚したほうが良いと思ったので、30代の時に結婚した」とMさんが言った。

男性の幸せと女性の幸せについて

Mさんの奥さんは専業主婦である。奥さんは結婚してから仕事を辞めた。なぜかというと奥さんの優先順位の一位は家族があつて、自分の人生は家族に献身したかったからそうだ。Mさんの奥さんと話した時「女性にとって家族を作るのは一番大事なことのではないでしょうかと私は思うから、仕事を辞めて、今でも家族のために一生懸命頑張って、努力し続けていく」と言った。

Mさんや奥さんの意見を聞いた時私は思ったのは男性は、仕事を通して人生の成功や幸せをつかむけど、女性は逆に家族を通じて生きがいを見出し、幸せになるのではないだろうということだった。私にとっても家族は優先順位の一位だけど、仕事も大事に考える。

どうして結婚は人を幸せにするものだと思いますか。

結婚することで人生を2人で、困難、幸せを乗り越え分かち合い、周りの人に支えてもらって自分も人にとって良い影響を与える人生を送れることができると考える。

幸せは誰かに求めるものじゃないと思う。自分が幸せな結婚生活を送ると思ったら、それでいいのではないのでしょうか。二人で、二人ともが幸せになろうと思える気持ちが大事だと思う。結婚には、相手を幸せにしてあげたい気持ちが必要だと考える。「誰かに幸せにして欲しい」という受け身の気持ちのままでは、いつまでも幸せはやってこないのではないだろうか。

大きな家族があって、良かった。毎日幸せを感じる。自分の子供たちを誇りに思うし、僕の宝物だと。子供たちは小さい時にスヤスヤ眠っている顔を見るのが幸せだった。子供たちが元気でいてくれて幸せだ。

自分のコメント

最初は結婚の最大のメリットは人生の喜びや苦しみをシェアできることだけでなく、子供を作ることでも大事だと考えた。子供ができて、二人だけでなく、大きな家族で幸せな人生を送ってみたいと思うようになった。

5. 結論

色々な人にインタビューしたことで自分が将来にどんな結婚生活を送りたいかということが分かるようになったと思う。

私は結婚したい理由は幸せになりたいからだ。結婚することで私の人生がもっと豊かになり、より良い実りある人生を 2 人で共に過ごせると思うし、生きがいを見出せると思う。

私の理想な結婚相手は思いやりがあって、優しい性格を持っている男の人だ。そして目覚めのキスしてくれる男性（笑）。この人となら、自分はどんな苦しい時も笑って乗り越えていける。この人の人生と生命を共に育んで生きたい。この人になら、自分の人生と生命を託しても後悔しないという人を見つけたら、結婚したいと思う。

幸せな結婚生活を送るために必要だと思うことは

結婚の幸せは、二人の努力で築いていくものだと思う。

まず、互いに相手を思いやり、支えになれる相手である。そして些細な日常の言動に愛情を感じることは大事だと思うので、毎日分かり合う努力をし、感謝や尊敬の気持ちを持ち、相手に伝える。それは幸せな結婚生活を送るために一つの工夫があると考えます。

さらに、受け入れることも大事だと思った。自分を受け入れ、相手や相手の家族、ライフスタイルを受け入れ、そして自分のことを受け入れてもらったら、幸せな結婚生活を送ることができるのではないのでしょうかと思うようになった。そして相手のことをちゃんと受け入れるように、同棲してみる必要があると感じた。

KさんやRさんと話した時結婚する前に同棲したほうが良いと思った。何故ならばお互いの見えなかった部分、嫌いな部分が見えるからだ。そして、同棲を通じて私自身にとって結婚相手としての準備を経験できる。現実と理想のギャップを感じないように、人生のパートナーを慎重に選べるように同棲してみる必要があると感じた。

結婚と仕事

私は来年に大学を卒業するので、今自分にぴったり合う職業を探しているところだ。自分に合う職業を見つけることはやはり幸せだと思うから結婚しても、仕事を続けたいと思う。そのわけは社会との関わりを持っていたい、社会的に認められたい、家族以外の人に役に立ちたい、好きな仕事をやりたいからだ。男性は仕事を通して人生の成功や幸せをつかまえると言われているけど、女性は逆に家族を通じて生きがいを見出すと言われる。私も女性にとって仕事より家族が大事だという

考え方に賛成だ。しかし私にとっての仕事と家族は、植物にとっての光と水のようなものだと思う。私は仕事をする自分を支えるのは家族であり、家族を養うには収入を得ることやある程度の金銭的余裕があることのための仕事が大事だという考え方を持っている。仕事と家族の間のバランスをうまくとれば、幸せな人生を送ることができるのではないのでしょうかと思う。

国際結婚

Wさんの充実した結婚生活を見て、私も国際結婚してみたいと思った。

出会いは世界にも存在するからベラルーシ人がベラルーシ人と結婚をしなければいけないという法律はないと思う。ただし、お互いが文化の違い、言語を理解して分かり合える努力は大切だ。

結婚と子供

子供や孫がたくさんいるMさんの家族を見て、自分も二人だけでなく、大きな家族で幸せな人生を送りたいと思った。自分が生きた軌跡を自分の分身である子供達に託せたい。自分は一人子だったため、寂しくて、いつも兄弟がほしかった。それでできれば、将来に子供は二人がほしいと思う。ちなみにベラルーシに子供を経済的に育てるのは難しいため一人子の家族が多い。そのわけでベラルーシの人口はだんだん減っている。子供ができて、しばらく休んでから仕事を続けたいと思うので、夫と一緒に二人で子育てに対して協力し、責任を持つのは必要である。

私は、子供のころからずっと、結婚して、大きな家庭を持ちたいということを目指していた。父と母のような夫婦になり、自分が育ってきた家庭のような幸せな家庭を築いていきたいと考えていた。しかし私は16歳だった時に両親が突然に離婚してしまったので、大きなショックを受けた。それで結婚は、本当に人を幸せにするものだろうかということについて考えるようになった。両親が離婚する前に私は自分の家族を模範として、幸せな家庭を築いていきたいと思ったけど、両親が離婚した後で私はあまり結婚したくないと思ったようになってしまった。そのわけはその時結婚する意味がないと思ったからだ。しかし時間が経つにつれて、私は大人になって、考え方が変わってきた。結婚はもちろん良いところがたくさんあるし、よくないところもある。しかし色々な結婚しているカップルを観察して、結婚には悪い所より良い所のほうが多いということ考えた。それで結婚の良いところを中心して、結婚と幸せのつながりについて調べてみた。すると結婚することで、人はもっと幸せになるということが分かった。そしてこの研究のおかげで自分が将来にどんな結婚生活を送りたいかということが分かるようになったと思う。

自分の仕事と夢

「今の仕事は自分がずっと望んでいた事か
私の夢は何であり、どんな姿勢で前に向けばいいのか」

秋田大学教育文化学部

金 宣

目次

1. 作者の考え	2
1-1 仕事と夢と使命—どんな姿勢で前に向けばいいのか.....	2
1-2 環境と夢—自分の夢	2
2. 付けめん屋のTさん「Tさんの夢」	3
2-1 環境と夢	4
2-1-1 情報が無い田舎から東京へ	4
2-1-2 情報の多さ—だめな人間にならないように	4
2-1-3 生きていくための手段としての仕事	5
2-2 仕事に対する姿勢とやりがい	5
2-3 結論	6
2-3-1 支え	6
2-3-2 ベストを尽くす	7
2-3-3 認める	7
3. 薬剤師「Kさんの夢」	8
3-1 環境と夢—一筋を歩む	8
3-2 仕事とやりがい—ゆめのための仕事	9
3-3 「Kさん」が考える仕事は—社会とのつながり	9
3-4 結論	10
3-4-1 悩まず挑戦する	10
4. 韓国の大学の先生「Sさんの夢」	10
4-1 環境と夢—たどりつく	11
4-2 仕事と夢のつながり—忍耐	12
4-3 やりがいと前に向かっての姿勢—より良い私になるために	12
4-4 結論	13
4-4-1 失敗は失敗ではない	13
4-4-2 夢とは見えないからこそもっと楽しみである	13
5. 介護福祉士の「Nさんの夢」	14
5-1 環境と夢—夢のための努力	14
5-2 仕事とやりがい—お祖母さんの笑顔といろいろな教え	16
5-3 結論	17
5-3-1 人を大事にする	17
5-3-2 痛みは自分を成長させる	17
6. 終わりに	17

1. 作者の考え

1-1 仕事と夢と使命—どんな姿勢で前に向けばいいのか

私が考えている仕事というのは今の生活を維持するためあるいは、自分の実力を試してみるための一連の活動だと思っている。もちろん今の仕事のために小さい頃から夢をみてきて一生懸命頑張り、今の仕事までつながっている人もいると思う。すると、大人になった今、その夢が仕事として叶った場合、どのくらい自分の人生に満足しながら生きているのかが疑問になる。ある人は自分が好きな仕事をしていてもたまにはあきてしまう時もあるかもしれない。そうしたらその場合はそれを乗り越えるためにはどうすればいいのか。どうしてその夢を望んでいたのか。

そして、夢ではないが、今どんな仕事をしていて、その仕事に対してはどんな思いをしながら仕事をしているのか、また、その望んでいた夢とは違う仕事をしているとすると、自分が持ってきた夢は自分が生きているうちに必ずいつか叶わなければならない自分なりの使命なのか。そして、それが自分の使命だとすると、今の仕事は自分の夢、つまり自分の使命とはどのようにつながっているのか。

それぞれの状況で、今の自分の仕事と自分の生きがいとはどのようにつながっているのか、私たちは仕事に対してどんな姿勢で向かっていけばいいのかを調べてみる。

1-2 環境と夢—自分の夢

まず、私の場合は裕福な家庭で育てられたわけではない。それで、したいことがあってもいつもできなかった。いや、できなかったというより諦めたというのが正しいかもしれない。たとえば、小さい頃、私はピアノが習いたかったが、母に習いたいと言えなかった。その理由は母に習いたいと言っても母としてはピアノを弾かせる経済的な余裕がないから、娘の話に聞いてあげられなかったら胸が痛くなるかもしれないからだった。それで私は母に全然話せなかった。そして、中学生の時からファッションデザイナーになりたかったが、いろいろな情報からデザイナーになるためには社会的に必要される資格がたくさんあるというのがようやくわかるようになった。立派な大学に入って資格を取ったり、海外で留学して資格を取ったりすることだった。私の環境ではもう無理だと思って諦めるしかなかったのだ。

ただ望みや憧れなどの理想と現実とは大きなギャップがあるというのをわかった時はもう私の考え方も夢も変わってしまった。20歳、ちょうどそれを感じた時、私は交通事故にあって病院に入院して人生についていろいろ考えたあげく、自分にとってもっと意味がある夢を見始めた。

私は私なりの施設を設立したい。社会から疎外されているお年よりや両親から捨てられた子供達のための施設だ。私の変わった夢もまた現実的にはできないかもしれない。もし叶えないかもしれない。でも、私は他の人を助けながら生きていきたい。私が事故で死なないで、もう一つの生をうけた理由は、たぶん今までは自分のために生きてきたが、これからの人生は自分のためではなく他の人のため

に生きていくべきではないかと思ったからだ。

でも、その夢を叶うためにはお金が必要だと思った。もちろんその夢と関連する経験や仕事をするのも大事だが、関連する仕事をするためには資格も必要だからお金が必要だし、施設を建てようとする大金が必要だから、まず、これからお金を稼がなければならないと思った。それでお金を稼ぐために会社に入った。ところで、会社で感じたのは一般の会社で女の人が長い間、仕事を続けるのはすごく難しいし、いくら一生懸命働いても認められるのも難しいということを感じた。それで私は女の人として長く続けられる仕事を探してチャレンジしようと思った。もちろんその仕事を探すのは私が興味があることの中で自分が長い間、ずっとできそうなことを探してみた。でも、その仕事を探して働いてみたが、続けるのは簡単ではなかった。以降、私はまた別の道を探した。このように日本語を学び、留学し、いろいろな経験をしているのはこれから教育者としての道を歩みたいからだ。でも、これは本当の私の夢ではない。本当の夢を叶うための手段として私が選んだ仕事なのだ。教育者というのは私にとっては仕事としての夢であり、施設を建てたいというのは自分の人生において使命のような大きな夢であるわけだ。

今まで、私が社会でいろいろな人に出会って気づいたのは、みんな一生懸命、仕事をしていながらも胸の底には他の叶えられないかもしれない何かをずっと願っていることだった。今の仕事はその夢とつながっている人もいたが、そうではない人もいた。

そうだとすると、今の仕事は自分にとってどんなやりがいがあり、人生で仕事というのはどんな意味があるのだろう。それで、いろいろな分野で携っている人とのインタビューを通して、それをわかりたいと思う。

2. 付けめん屋のTさん「Tさんの夢」

Tさんはもう40年以上付けめん屋をしてきた。今の店はちょっと古く、広くないので一気にたくさんのお客さんが入れない。そして、料理の味はすごくいいのに、それに比べると値段はあまり高くない。私のような留学生にはすごく当てはまる所だと思う。このようなところから見るとTさんは、たぶんお金を稼ぐためにこの店をしているわけではないだろうと思ったから私はTさんに対してもっと知りたいという気持ちになった。

韓国では一つの仕事をずっと続けていくことやその仕事を代々に継いでいくのがとても珍しいと思われている反面、日本は職人として自分の仕事をずっと続けている、そして、それを継いでいくというのがよく知られている。

Tさんが40年間ずっとこの仕事を続けて来られた原動力は何だったか、そして、いつも無口で、私から見るとちょっと動くのが大変そうに見えたが、本当に体の具合が良くなかったら、それにもかかわらずこの仕事を続けているのはなぜか、どんな思いで今の仕事に向かっているのかが気になった。

2-1 環境と夢

2-1-1 情報がない田舎から東京へ

秋田の農家の長男で生まれたTさんは回りが全部農業をしている人ばかりだったし、長男だから農家の後を継ぐというのが当たり前だと思って特になにかになりたいというのはなかった。今はテレビやインターネット、携帯電話などから情報を得るのが簡単だがその頃の田舎では情報などが全然なかった時代だったため、今より視野が狭かった。それで自分の夢に対しての視野も限界があったかもしれない。

Tさんは高校を卒業して、二十歳ごろ、生活の限界を感じ、東京に行くことにした。

多分この言葉の意味は「井の中のかわず大海を知らず」ということわざのようにもっと広い世界に出、いろいろなことを味わってみたいというTさんの気持ちではないか。

Tさんは今まで住んでいた小さな田舎を出て大きな東京に行った時、自分ができることを探すのに苦労した。でもある日、小さなうどん屋の看板を見つけ、「たぶん飲食店なら私もできるかな」と思ったTさんはこれがきっかけになってこのラーメンを作る仕事に携わっている。

2-1-2 情報の多さーだめな人間にならないように

Tさんが東京にいき、30歳ごろに喫茶店やうどん屋も経営した。東京に行く前はずっと農村で静かでゆとりのある生活をしたはずなのに、東京でのうるさくて賑やかな生活はどう感じたのか。また、今まではよく得られなかった情報がたくさん得られる都会での生活に対してどう思ったのか。たぶん最初は知り合いもなく今まで生きていた所とはぜんぜん違う所での生活を適応するのが難しかったかもしれない。

Tさんははじめに東京に行った時、その情報の多さに驚いた。

「今にもそうだが、その情報の波に乗れる人もいれば乗れない人もいる。周りの情報がどういう立派な情報がたくさんあっても自分ができることがあればできないこともある。いろんな人と話してみるとその情報をたくさん持っている人が、さも知識人みたいな、頭がいいみたいな、そう感があったりすると思うけど、でもその情報と実際の人間性は実はぜんぜん別の問題だと思う。でもやっぱりその情報を無視するわけではない。その中で私たちは住んでいるから。」

情報があふれる東京で働いていたとしてもいつも小さな店の中で働いていたため広い世界に向かっているわけではなかった。Tさんはコンピューターも携帯電話の検索も英語もぜんぜんできないそう。たぶんTさんが話したいのは自分は何に興味を持ち、自分には何が必要であるか、そして、その興味に関しての情報以外の情報をもっていないとしても、それは人間性や知識があるかどうかをはかる尺にはなれないということではないか。

「その情報の中でついていけないことに対して自分がだめなことはおいといて。

若い人は自分の欠点がみえるとうれてないからといって、それを気にして、むりやりについて行こう

とする。その結果、ついていけなかったら、自分がだめな人間だと思ってしまう。自分ができないことは認めて、平に直って、出来た人に対しては、それはすごいなとあなたすごいなと私はできないけどいいんじゃないかといえればいい」

もちろんその情報の中で自分ができるかできないか判断するのは難しいかもしれない。でも、Tさんが言いたいのは自分が興味がないことについて、ただ時代のながれに巻き込まれて、もし、できなかったら自分をだめな人間として自ら責めてしまうと自分はもっとだめな人間になってしまうという恐れではないか。

2-1-3 生きていくための手段としての仕事

Tさんは東京で働いて20年ほど過ぎたある日、つい体を壊してしまってまた田舎に帰ってきた。しばらくは仕事ができなかったがまた付けめん屋をはじめることにした。

Tさんはこう話した。

「今の時代はいろいろな情報も簡単に得られるし、何でもできるから知恵より知識だけを追求している。それで知識があっても知恵がないと言われる。でも、昔はあまりいろいろな情報がなかったので、知識を得るのが難しかった。それで、多くの人々は知識より知恵を追求していた。自分も、戦後だったその時、今自分が考えてみてもおかしいと思うほど、何もない子供そのものだった。夢などは全然考えられなかったし、いろいろな分野に関する情報が全然なかったし、知識を得ることもできなかった。そして夢というのより、ただこれから生きていくために自分の知恵を用いて生きていくしかないと思った。それで、初めにうどんの仕事を選んだのも、ただこれから飢えないために始めただけだった。今になって考えてみると若い頃が懐かしく思い出される。」

2-2 仕事に対する姿勢とやりがい

Tさんはこう話した。

「お客さんが望むのを作るか、自分が食べてこれおいしいという自分が好きなものを作るか」

「お客さんが好きなものは十人十色だから、それにいちいち目に向かうと本人が大変になる。自分が好きなものを食べてくださいと言えるほどのものを作れば簡単だ。自分がおいしいと思ったものを作っていこうとするのは自分にとってプライドが守れるし、納得することができるお客さんが買ってくれて初めて、自分の考えたことを主張できるんじゃないか。だから、自分がまず何が好きなのかということを知ることが大事だ。それでそれをまぜて提供する。それからみんなの好みを耳に傾けて他のものを作っていく。もちろんお客さんが欲しいものを作るのも大事だけど、まずは自分が好きなものを探るのがもっと大事だ。若いお母さんが自分の子供にまずいろいろ歯ごたえを確かめた後子供に食べさせるように私もそうだ。」

時々私は自分が好きなことをしていても飽きてしまう時もあり、私が行ってみなかった道へのかすかな憧れを感じる時もある。でも、やはりこのように長い間この店を続けて来られた理由はお客さん

に対しての思いや自分が好きな料理を作りながらもそれをお客さんから求められたことだと思う。

最初にTさんにインタビューの約束を頼んだ時、私は私の論文のテーマについてはっきり言わなかったまま約束をとった。それでTさんはちょっと論文について気になったのか自分なりに論文に合う何かを用意してくれた。それは、そばが持つ栄養素や成分、何からそばが作られているのかが書かれたノートだった。もちろんそれをもらったし、そばについていろいろ教えてもらった。その時私は、Tさんの声と目がいきいきに変わっていくのを感じた。たぶんそれは40年以上してきたこの仕事についてのTさんの自信感ではないかと思った。そして、Tさんは自分が好きな仕事をしながら、もしかして自分が会社員とすればもう定年なのに今までずっと仕事をし続けられるのによかったと話した。

この仕事はTさんにやりがいにもなるし、仕事をしているうちには寂しくならないので友達にもなると思う。人は仕事をしながら他の人とのつながりができるし、私が誰かに役に立つと思うと力が出てくるので、できるだけ何かをずっとし続けるのが大事だと思う。

2-3 結論

一回目のインタビューでまとめた下書きを直してもらうためにTさんを尋ねた。営業時間だったので、原稿だけ渡して次の日にまた来ようと思った。最終的に明確な結論として一回目のインタビューで慌てて聞けなかった部分をもっと聞きたかったからだ。でも、Tさんはその場で原稿を読み始めたし、私もお腹がすいたから、Tさんが原稿を読んでいる間に私はツケメンを食べた。でも、Tさんの表情があまり良くなかった。もしかして私の原稿が気に入らないのではないかと心配になった。

Tさんが原稿を読み終わった後、その理由を聞いてみた。

表情が良くなかった理由は最初の私の考えのところを自分のことだと間違えておかしいと思ったからだそうだ。でも、私が論文について詳しく説明した後、日本語の間違ったところやインタビューの内容と相違なところを直してもらうことを頼んだら、Tさんの顔がすぐ良くなったから、その以外のところは気に入ったようだった。

原稿を直してもらった後、営業時間だったので長く話すのは迷惑だと思った私は席に立ってカバンを片づけていた。その時、Tさんに「お茶、飲む？」と言われた。確かにそれは何かもっと私に話したいことがあるはずだと思って、私はまた席に座った。そして、幸いに他のお客さんが来なかったのものでその場で2回目のインタビューの許可を得ることができた。何よりも今回は、まずTさんが私に話してくれてうれしかったし、後30分くらいのインタビューで次のような結論を得ることもできた。

2-3-1 支え

今まで仕事を続けてきたのに自分を支えてくれたのは何かを聞いてみた。

Tさんは

「まず、私の夢はあまり立派なものではないから論文としてはふさわしくないと思う。そして、成

功というのは政界から認められることだと思うが、自分は全然成功していないと思う。

でも、今私を支えてくれるものなら、自分の仕事をずっと働けることと共に社会とつながっていること、そしてやはりお客さんから認められることだと思う。」と話した。でも、私はちょっと違うと思った。Tさんは自分は立派ではないと、成功してないと思っているが、私が考えている成功というのは立派な店でもないし、政界中からの高い評判でもないと思う。その成功を計れるものは決して何もないと思う。実際に韓国に帰った留学生の中で多くの学生からこの付けめんが食べたくてたまらないと聞かれた。私ももし韓国に帰ったらこの付けめんが食べたくなると思う。このようにTさんの付け面の味を懐かしがっている人がいるし、認めてくれる人がたくさんいるのだけで、もうそれで十分ではないだろうか。私はこの気持ちをTさんに伝えた。そうするとTさんは最初インタビューした時、自分の得意なうどんについて話しながらした笑顔よりもっと幸せな表情をした。

私も無口で本音がないとあまり話さない性格だ。もし、ある人がこの話を聞いたらTさんに対して私の褒め言葉がお世辞のように聞こえるかもしれないが、でも、私の本心が通じたか、インタビューしている間、Tさんの幸せな表情で私も幸せになったし、すごく楽しいインタビューの時間だった。

誰かから認められるのは、ただ自分が得意だと思っていることをプライドと共に自分を幸せになれるように支えてくれるのだと思った。そして、その支えは自分の仕事が大変だと思う時、うまく乗り越えられるように力になってくれるのだと思った。

2-3-2 ベストを尽くす

Tさんはまた自分ができることの範囲の中でベストを尽くして認められることが大事だと話した。

Tさんは

「今の体の調子はあまり良くないからお店の掃除をするのもすごく大変で、いつも店はあまりきれいではない。たぶんあるお客さんが見たらこれはお客さんに対して礼儀正しくないと思うかもしれないが、でも、どうしようもないことについて無理をして自分を責めてしまうと、結局、自分がしたいことを長く続けられない。だから自分ができることの中で最善を尽くし、その中で他の人からいい評判をもらうことが大事だ。」と話した。

2-3-3 認める

この仕事の中で人は他の人とつながっているし、そのつながりの中で人は他の人を考える思いをしながら私は生きがいを感じている。今回は自分の夢が叶ってその夢が仕事までつながっている場合ではないが、その夢というのは時代性や自分の環境にも影響を受けているのがわかった。

他の人から認めてもらうのは自分が今の仕事や夢を続けられるのに、いくら支えになってくれるのかをわかるようになった。私を振り替えてみたら、いつも自分ができないことについて自分を責めて、できることさえできなくなってしまったことに気づいた。ここで私が思ったのは、他の人から認めてもらう前に、まず、自分ができることについて自分を認めてあげることも大事だと思う。Tさんもち

ぶんこれと同じようにお客さんから認められる前に自分の味に自分がまず認めたから自信を持って商売し始め、段々お客さんにも認められたと思う。だからこそ、もっと自分が幸せになれるのではないか。まず、私は私のことを認めてあげよう。

3. 薬剤師「Kさんの夢」

私の日本での大事な絆であり、いろいろなところで助けになってくれたKさんは、薬剤師として若い頃からずっと働いていて、定年を過ぎた今でもその実力を認められ、ずっと現場で働いている。

このインタビューをする前に少し仕事についてKさんと話し合ったことがある。その時、Kさんは仕事はただ社会のつながり、つまり他の人とのつながりだと簡単に話した記憶がある。でも、私は仕事というのは自分の夢のための一つの手段だと思った。もちろんその仕事が夢であった人もいるはずだ。

私とはちょっと違う考え方を持っているKさんは今の仕事が夢だったのか、そうではないと、どんな夢を持っていて、どんな思いで今の仕事に向かっているのか、そして若い頃から今まで仕事に対して、どんな姿勢で続けてきたのか。

3-1 環境と夢——筋を歩む

Kさんは小さいころからかすかながらも誰かを助けながら生きてきたかった。それで進路を決める時もその夢を踏まえて薬剤師になるのを決めた。特に命にかかって誰かを助けてあげたかったので医療関係の仕事がしたくて薬剤師を目指したのだ。もともと明確に結果が出るのが好きな性格なので文科よりは理科の方だった。

大学を卒業して薬剤師をしながら30歳ごろにはずっと念願していた海外のボランティアに行くために申し込みをした。でも、それが合格して次の年にボランティアに行くことになったが、その直前に突然、父親が亡くなったためボランティアを諦めるしかなかった。

そうすると、ボランティアの夢は完全に諦めたのか。

Kさんは漠然な夢を胸に畳んだまま生きてきながらなかなかまたその夢のための計画を立てられなかったそうだ。希望を持って、願うことを目指して行くのも難しいが、その途中で何かにつまずいて倒れたら、また新しい希望を持って立ち直るのははもっと難しいことだと思う。それで、また夢のための計画を立てるのが出来なかったのではないかな。

Kさんはその以降、他の人を助けたいという気持ちは相変わらず、海外ボランティアの変わりにずっと薬剤師として働きながら、自分が出来る範囲で他の人を助けながら生きてきたわけだ。自分の人生においては誰かを助けてあげながら生きていくのが生きがいと思っているからだ。

私がここで感じたのは私は社会動物とはいえども、トラやライオンのような動物とは違うのはこれだと思う。動物は自分より弱いものを殺し、食いながら生きている。でも、人は自分より弱い存在を

助けたいと思いながら生きている。もちろん人によって違うかもしれないが、他の人もそうではないか。たとえばバスでお年寄りに席を譲ったり泣いている子供を慰めたり道を迷っている人に案内してあげたりすることだ。このような様子を見ているとそのすべてのことが自分より相手が弱く見えるから助けてあげたいと思うのではないかと思う。

3-2 仕事とやりがい—ゆめのための仕事

Kさんは仕事上でどこか体の調子が悪い人との相談が多い。その対話の中でKさんは今、相手の問題や原因についてアドバイスしてあげ、相手がそのアドバイスを受け取って薬を買ってよくなるのを見るのがうれしいそうだ。

ところが、自分が好きな仕事をしながら今までやめたいと思った時はなかったのか。

Kさんは今まで一度も辞めたいと思ったことがないそうだ。もちろんたまにはこのままで大丈夫かと思ったことはある。もっと自分自身をを発展させるためにはこの場所(田舎)ではなく他にもっと大きな場所(都会)に行き、自分を鍛えるべきではないかと思った。

でも、これは仕事で飽きるのではなくこの仕事上でもっと進んで行きたいという熱情であろう。そして、その熱情はいつかは私の夢のための種を用意するという意味ではないか。

そして、Kさんはいつか機会あったら必ずその夢のためにボランティアに行きたいそうだ。

実際にインタビューをしてみたら、その内部には私と同じ考えを持っているのがわかるようになった。それで、私は私の夢について具体的に話すことができた。そうしたら、kさんは「後で私が死ぬとすればあなたに私の財産を寄付するよ」と冗談半分で笑いながら話した。そして、私も「私のことをあまり信じないでください」と同じように冗談半分で笑いながら答えた。

この対話がたとえ冗談だとしても、私が初めて来た日本で、私と縁がある人の中で同じ夢を持っている人がいることだけでも十分に心強いことだと思う。同じ方向を向かっている人がいるということは何よりも大事だと思っている。

3-3 「Kさん」が考える仕事は—社会とのつながり

仕事であり、ある程度は自分の夢であったこの仕事をKさんはどう思っているのだろう。

もちろん自分より弱い誰かを助けながら働くのは生きがいも感じられるし、社会人として社会とのつながりがあるというのは自分は一人ではないという心強さも感じられる。

たぶんこれは、まだ自分が社会の中で何かが出来るということ、つまり、社会から認められているということは自分がまだ生きているという証拠であり、自分の存在感を感じられる生き方ではないか。

3-4 結論

3-4-1 悩まず挑戦する

私は今まで私の環境を考えすぎて何もしないで悩んでばかりだった。ただ頭の中で漠然な判断でそれはできなさそうだと諦めてしまったものだ。もちろん、一応やってみるのが何もしないよりましだというのはわかっているがそれを実践するのは難しかった。

私が会社をやめて大学をまた入ろうとした時もそうだったが、その時だけはもう遅くならないうちにしてみようという考えでチャレンジしたのだ。その結果、私は本当によい判断をして実践したと思う。もちろん皆がよい結果を得るとは言えない。その時期や環境に対しても違う結果が出るかもしれない。

また、kさんはこう話した。

「今になってこそ考えているのは迷わないで若いうちにチャレンジしてみることだ。それができるかできないか、あるいはそれに関していろいろ悩んだあげく諦めてしまうことが多いけど、一応やってみる。何もしないで悩んでばかりで、何もわからないまま諦めてしまうより、悩んでいるその時間に一応やってみてそれができるかどうかをわかるようになるのがもっと大事だと思う。もし、自分が出来ないと思ったことがチャレンジしているうちに偶然にも他の道が開くかもしれないから。」

でも、どこまで自分が望んでいるのをチャレンジしてみればいいのかを判断するのは難しいと思う。そして、自分の夢がよいものかよくないものか判断するのも難しいと思う。これを判断するのがこれからの私のもう一つの宿題になれるかもしれない。

でも、私が大学を入ろうとした時、経済的に困ることなし、このように続けて来られるとは思えなかった。もちろん自分なりに最善を尽くしたが、最善を尽くすのだけで全てが叶えるのではないと思う。でも、私は最善を尽くしているうちに自分も知らなかった方法で道が開いて、ここまで無事に来られたと思う。だから、夢を叶うために今何かをしている時、諦めないで 前向きでずっと続けようとする心がけが必要だと思う。

4. 韓国の大学の先生「Sさんの夢」

大学に入って1年生の時、コンピューターの教養の授業があった。始めはただの先生だったが、いつの間にか仲良くなってたまには自分の話を話し合う先生と学生の関係になった。自由奔放で飾らない正直な性格のSさんだった。

Sさんとのインタビューは直接会ってインタビューするのができなかったのでインターネットのメッセージでインタビューを行った。話しながらインタビューするのもよいが、自分の考えを文章で書

いて相手に伝えるのもいい方法だと思う。文章に書く時はちゃんと考えた上で相手に伝えるので、もっと丁寧に質問できるし、丁寧に答えることもできるからだ。

韓国の大学の先生といえば社会的に名誉ある仕事であり、誰にでも認められ、自らもプライドを高めていると認識されている。でも、段々名誉だけ求めている人が多くなり、教育者その本質的な資格については覚えてない人が多そうだ。その中で働いているSさんはどんな夢を持っていて、どんな考えで自分の仕事に向かっているのかが気になった。

4-1 環境と夢—たどりつく

Sさんの小さいごろの夢はなりたいことがたくさんあったが、その中で一番なりたいのは医者や看護師だった。でも大きくなるたびに夢は段々変わってきて、高校生の時、本当にしたいことができた。それは、職業軍人だった。でも、うちの反対で志願もできず諦めてしまった。職業軍人になりたかった理由は軍人や警察のように制服を着る職業が好きだったし、自分の性格とも似合うと思ったからだ。今は時代が変わって女の人でも軍人になるケースが多いが、その時代の韓国は女の人が軍人になるのはいいイメージではなかったのが難しかったかもしれない。

高校を卒業してから、軍人になる夢はできなくなったし、あまり大学に入りたくなかったから1年間はただ時間をつぶしながらまた他の道を探そうとした。でも、兄の勧めで大学の電子計算学科に入ることにした。それは自分の夢とは違う道だったからあまりやる気がなかった。でも、自分がしなければならないことに対してはちゃんとする性格なので、勉強は一生懸命して奨学金をもらいながら優秀な成績で卒業した。

大学を卒業してソフトウェア開発の会社の就職したが、いつもこまごました仕事ばかりだった。その時もまだ軍人の夢は持っていたが、現実的にできないことだと思い、仕事に集中していた。それで、会社が他の会社と合併してから一番若い年で代理になり、一番短い期間で課長になった。仕事と人との関係はすごく面白かったが、位が上がるとともに仕事もたくさんできて、自分の時間は無くなっていつも残業で会社で過ごす時間が多くなってきた。結局、体が壊れてしまって仕事を辞めることにした。しばらく休んでいるうちに韓国航空宇宙研究所でスカウトの電話がかかってきて研究所に入るようになった。そこでの主な仕事は衛星通信の実験だった。

何かとても難しそうだが頭悪い私としては思いもできない仕事だと思う。でもSさんはすぐ慣れたそう。やはり私とは全然違う優秀な脳を持っているのに間違いない。

ある日、Sさんは上司から「もっと勉強したどう」と言われてもっと勉強することにした。昼は研究所で、夜は大学で勉強を始めた。現実的に研究所で昇進するには学歴と人脈が大事で、学歴も人脈も他の人より持ってないSさんは昇進するのがとても難しかった。たぶんこのような優秀な部下を心配していた上司がそのようにアドバイスしてくれたと思う。

それで、Sさんはその職場も辞めて、また大学院に入った。今は講師で大学で教えているがいつか

正教授になるのが今の夢だそうだ。

4-2 仕事と夢のつながりー忍耐

Sさんは今の仕事にどのように考えているのか。満足しているのか。大変な時はないのか。その時はどのように乗り越えているのか。そして今の夢は人生での唯一な夢なのかあるいは遠い未来のほかの夢とのつながりなのか。

Sさんは

「もちろん今も大変なことがたくさんある。修士や博士の課程の人達が正教授になるためには今の正教授に信用を失って憎まれるようになるの大変だ。それで、正教授達からさせられたことは必ずしなければならぬ。たまにはそれが我慢できなくて辞めたい時もあるが、でも、それは仕事として夢として辞めたいのではなく人間関係の問題だ。その時は私はこの課程を卒業するとこの問題は終わりだ。もうすぐだ。と思いながら我慢する。」と話した。

たぶんこれは私の夢をどんなに切に望んでいるかの気持ちにつながっていると思う。夢のために乗り越えなければならないこと、我慢しなければならないことを忍耐すること、もし、これをうまく乗り越えたら私の夢はもっときらきらに輝けるに違いない。

また、Sさんは

「そして、もう1つの夢がある。それはある海水浴場の近くに樹木園があるけど、年が取ってそこで自然を友人として奉仕しながら、たまには大学に講義をしながら、そのように生きたい。」と話した。他の人の夢がいいか悪いか私が判断できないことだが、誰かの助けになりたいというところで、すごくいい夢へのつながりだと思う。

4-3 やりがいと前に向かっての姿勢ーより良い私になるために

「今は昔自分が願った仕事をしているのではないが、兄の勧めで歩み始めた勉強が今まで続いていたわけだし、でも、誰かを教えるのにすごくやりがいを感じている。そして、その中で私は今、昔とは違う希望を持っている。今になって考えてみると、もうちょっと早くこの道を見つけて早くし始めたらよかったと思う時もあるが、今までの失敗や大変なことがなかったら、今の私はいないと思う。もし、私が昔願った軍人になってその道を歩んだとしても、今までずっと続けているとは思わない。たぶんずっと続けるか辞めるか悩んでいるかもしれない。悲しくて苦しかったことを味わってからこそ、今の幸せがどんなに大きくて大切なものなのかをわかるようになるのではないか。悲しいことや大変なことを経験しなかった人は幸せなのにそれが幸せだと感じられない不幸な人もいる。」

私も今までいろいろな失敗や悲しいことを味わってしてきた。私ももうちょっと早く今の道を歩み始めたらよかったと思う時もあるが、ようやく今までたどってきたから考えてみるとそれがなかった

ら今の私はいないと思う。今、私がどんなに幸せにいるか感じられないと思う。そして、今、いくら苦しいことがあっても乗り越える力ができたのも苦しい過去があったからだと思う。

でも、いつまでも、過去のことに未練がましくしてはいけない。過去のことを踏まえて希望を持って未来に進まなければならない。今、苦しければ苦しいほど未来の私はよりよい私になるのに間違いないと思う。

4-4 結論

4-4-1 失敗は失敗ではない

私は今までずっと続けられなかったことを全部失敗したと思った。自分の意思で辞めた仕事も、自分の意思ではないことで辞めたことも全部失敗だと思った。それで、また、新しい仕事を探すのもその仕事の中で夢を見るのも怖かった。また失敗するのが怖かった。でも、ようやくわかる気がする。その失敗があったからこそ今の私がいることを。失敗だと思ったすべてのことは決して失敗ではなかった。

仕事の中での夢が私の人生の使命としての夢につながっているから、両方の夢が簡単に叶えると、たぶん私は叶えた夢の中でまた悩んでいるかもしれない。そして、その夢に対して、それがどんなに恵まれているのかを感じられないかもしれない。幸せだと感じられないかもしれない。乗り越えられる力がないかもしれない。むしろ、今までの失敗だと思ってきたすべてのことに対して失敗してよかったと思うのが正しいと思う。

今、私はまた、私がしたい仕事を見つけてそれを向かって歩いているところだ。その仕事の中で私が望んでいる夢が叶えて、人生の使命としての夢までつながっていったらいいと思っている。その夢に対しての私の気持ちがどんなに切に願っているのかにしたがって、今いくら苦しくても大変でもそれを乗り越えられると思う。

4-4-2 夢とは見えないからこそもっと楽しみである

自分の未来のことが全然見えなくて不安になる時、大きな選択の岐路で何を選んだらよいか迷う時、たとえ自分の夢が叶えられなくても、その夢のために、どこまで歩んで行けばいいのだろう。

Sさんはこう話した。

「現在の自分の悩みはよりよい未来の自分のためにあるものだ。すべてのことでベストを尽くせばいい。自分の未来のことを全部知っていたら、それほど面白くないこともない。自分の未来のことを全部知っていると自分がしたいことがあるだろうか。いくら頑張っても、頑張らなくても自分の未来

が決まっていたら、たぶんなにもしたくないかもしれない。未来は決まっているのではなく自分が作り出すのだ。見えない未来だから、未来で待っている自分を考えながら、もっと輝いている自分を楽しみながら、今私はもっと頑張れる気がするのだと思う。」

雲に隠されて星が見えなくても、確かに雲の後ろには星があるのに違いない。私の未来も見えなくて時々不安になる時もあるが、確かにある未来の自分の姿を描いてみながら歩いていこう。ある人にポジティブすぎるのではないかとと言われるかもしれないが、私はポジティブな考えがポジティブなことをもたらすものだと思う。つまり、未来の輝いている自分は、今よい考えをし、努力している自分の産物だと思っているからだ。

5. 介護福祉士の「Nさんの夢」

日本でのもう一人の大事な絆であり、いろいろなところで助けになってくれたNさんは、私と同じ夢を持っている。でも、夢に向かっての方法としては私とは違う道を歩んでいる。そして、もともと私も歩いていくべきだったその道をNさんはもう歩いていて、たくさんの経験をしている。このインタビューを通して、Nさんからいろいろなことを学べると思う。

他の人に対していつも気を使っているNさんは、いつも顔にはほほえみながら、まず自分から挨拶してくれる包容力があるやさしい人である。このような性格のNさんはどうして介護福祉士という夢をみ始め、その理由は何であり、どんな姿勢で前を向かって進んでいるのか。そして、自分が選んだこの道の中で大変なことはなかったのか、それを乗り越えるのにはどんな思いが必要なのかを聞いてみた。

5-1 環境と夢一夢のための努力

Nさんは秋田で生まれて、今秋田で生活している。いつも両親が忙しかったので自分の世話をみってくれる人はおばあさんだった。いつもおばあさんと話したりおばあさんから編み物を教えてもらったりしながらおばあさんからすごく愛された。それで、高校を卒業後、おばあさんからもらった愛と恩恵に報いるために、そして、社会的にも2025年になると少子化によりお年寄りが増えて若い者1人あたりに扶養しなければならないお年寄りが4人になるという話を聞いて、将来、お年寄りを介護する仕事に目指すことにした。でも、最初はお年寄りを介護するためにはなにが必要か全然わからなかったので別のしごとしたが、その後、お年寄りを介護する仕事に変えた。その仕事をするのには最初は、実際に体が不自由な方の体を触ってお風呂や着替えや食べたりするのには特別な資格は要らなかった。でも、相談などのレベル高い仕事をするためには資格が必要だった。

今はヘルパー1級、2級などの試験があつて資格を取ることができるがNさんが仕事を始めようとし

た時はまだその試験がなかったので、一応、3ヶ月の研修の後で施設に就職した。その後、現場で3年以上働いた人は介護福祉士という試験を受ける資格ができるのでNさんはその試験を受けて資格を取った。また、Nさんはお年寄りとの相談のことも大事だと思ってそれをするためには社会福祉士という資格も必要だったのがわかった。それで、その資格を取るために調べている中に仕事しながら勉強できるのは京都にある通信大学しかなかった。でも県外でも自分が時間が合う時に学校に行けばよかったので、昼は仕事、夜は学校の勉強をした。

3年ぐらい経った時、祖母が亡くなったので京都の大学と近い所に行って勉強したかったので大阪に行くことにした。無事に4年で学校を卒業してずっと施設で働いた。でも学校の実習と施設の仕事で働きすぎて体を壊してしまった。

Nさんは

「施設での仕事はすごく大変だ。いつも人が足りない。あまりお金を設けられる仕事ではないし、気持ちがあっても体が大変なので途中で辞める人が多かった。」と話した。

そして、大阪での経験についても話してくれた。

「仕事で関わった関わったお年寄りの中で平凡な人生を過ごした人だけいるのではなかった。若かった頃ヤクザだったお年寄りがいた。背中や腕にすごいイレズミを入れた方もいたし、トラブルを起こして指を切られたヤクザもいた。最初は怖かったが段々慣れてきた。

その中で、あるお年寄りはヤクザにお金を借りたが返すのがなかなか難しくなり、いつもヤクザを避けていたそう。お金を返さないと家にヤクザが来ると不安になり、相談されたのでNさんが一緒にヤクザに会うことにした。内心はすごく怖くて施設のほうにも3時間くらいしても自分が帰ってこなかったら警察に届けてくださいと話してからお年寄りと一緒にヤクザを直接に会いにいった。でも意外にも表面的には温厚なヤクザだったので無事に妥協してお金を返す期間を延長することにした。」という話だった。

今は年がとって私より弱く見えるお年よりでさえ、若い頃からずっと弱かったわけでもなく、どんな人生を過ごして来たかもわからない。でも昔、いくら悪い人間だったとしても今は弱くなった彼らを包容力ある姿勢で受け入れなければならないのか。この話はもし私だったら、どこまで彼らを受け入れることが出来るかということを考えさせてくれた。

Nさんは3回目で社会福祉士の資格を取った。そして、またNさんは介護の資格をもっている人の中で5年間現場で働いた人はケアマネージャーという福祉サービスのコーディネートする係りの資格が受けられることがわかり、その資格も取った。

それで今までの施設での相談の仕事辞めて、ケアマネージャーの資格を利用して家で大変な人のお家に行って家族と本人といろいろ困ったことを聞いて、それを解決するためにいろいろな方法を教えてあげるといった仕事をした。

どうしてこんなに多くの資格を取らなければなかったのか。資格を取ったのは上に上がるというイメージではなく幅を広げるという意味だった。

Nさんは介護と相談の仕事をした時、人の倍働いたので腰の骨をずらしてしまって一年間ぐらい大

変な状態になった。ある程度は治ったがもう介護の仕事は無理だったのでその時からケアマネージャーの仕事をした。

その後、また秋田に帰ってきて今は高齢者福祉の仕事をしている。

そしてこれからも福祉の仕事をしていきたいと思い、障害者施設の建築の勉強もしている。

5-2 仕事とやりがい—お祖母さんの笑顔といろいろな教え

Nさんは自分の夢のために一生懸命努力して夢を叶ったわけだ。ところで、自分が望んだ仕事をしながら大変だった、あるいは辞めたい時はなかったのか。

Nさんはやはり自分はおばあさんおじいさん好きでおばあさんとおじいさん達のうれしい顔を見ると自分の疲れや辛さは吹き飛んでしまうと言う。

そしてNさんは

「今自分が夢のために頑張っていることができるのは今まで自分にいろいろ教えてくれたSさんや先輩たちの助言だ。そして同じ仕事をしている人たちとの集会で、しょっちゅう会うことにして、もっと頑張れるようになる。辞めたいのではないが、時々自分も知らず、力が抜けて落ち込んでいる時、その人々から励まされたり、助言を言われたりする。それは自分にとって一番大きな奉げになってくれる。一人では続けられないと思う。実際に同じ仕事の先輩の中で、一人で施設を立てて一生懸命頑張った先輩がいるが、あまり経たないうちに自分の体を壊してしまってもう続けられなくなった人がいる。」と言った。

私も自分一人で続けるのは無理だと思っている。それが精神的に支えになってくれるお祖母さんの笑顔であれ、実際に支えになってくれるSさんや先輩の助言や助けであれ、確かにその人達がいないと自分一人ではずっと続けることは出来ないと思う。もちろんしばらくは出来るかも知れないが、長い間ずっと続けられるだろうか。

インタビューする間にずっとNさんはどうしてこのようにお年寄りが好きなのが気になった。

その理由は小さい頃からいつも両親が忙しかったため、自分の苦しみや辛さについて、いつもおばあさんに慰められたり愛されたりしたから、お祖母さんに対しての思いが、結局お年寄りに対しての気持ちになったわけだ。この気持ちこそが仕事でどんなに辛くても我慢できる原動力になったのではないか。私は人それぞれ自分なりの苦しみや痛みがあると思う。その中でそれを誰かからどのように慰められたか、どのように癒されたかにつれて、相手に対しての感謝の気持ちをもっと大きくなって、周りの人までに広まるのではないかと思った。私の思いではNさんの苦しみを完全にわかるのに限りがあると思うが、自分が大変だった時、誰かから癒されたことがある人ならその気持ちがわかるのであろう。

たぶんNさんの今の夢と仕事のやりがいは昔自分が辛かった時、愛してくれたおばあさんのやさしさと笑顔だと思う。それだけで一生のやりがいとして十分ではないか。

5-3 結論

5-3-1 人を大事にする

自分一人ではその壁を乗り越えられないことがわかった。周りの人々との協力で精神的にも現実的にも助け合いながらお互いにもっと頑張れる力をもらえるようになるのだと思う。そして、今私の周りの人々を大事にする思いも大事だと思う。たとえ今は亡くなっていないNさんのお祖母さんの笑顔のように、現実的には私の夢のために助けにならない方もいるかもしれないが、精神的にはいつまでも私の支えになってくれる人になり、私にとっては一番大事な協力者になると思うからだ。そして、その人々に対しての感謝の気持ちも忘れずに生きていくのも大事であろう。

5-3-2 痛みは自分を成長させる

私は将来施設を立てるのが夢で、その夢のために専門的な仕事を探している。お金を稼ぐために。そして、そのために今は日本で勉強をしているわけだ。

でも、Nさんは夢のために実際にお金より現場でいろいろな経験をしている。

似ている夢だがお互いの夢に向かっての方法は違う。それで、Nさんとのインタビューで私が全然知らなかった部分をわかることができすぎてすごく役に立った。夢を叶ったとしてもいいところもあるが、現実的に私の思いとは違うところもあるし、知らなかったところもたくさんあるはずだ。それを克服するためには私はどんな姿勢で前に向けばいいのか。

私は私だけではなく、人それぞれ自分なりの痛みを抱いて生きていることがわかった。そして、その痛みは自分をもっと成長させるし、今、どんなに辛くても我慢できる力を与えると思う。過去の失敗と痛みを踏まえて今を感謝しながら高そうな壁を乗り越えよう。特にNさんとのインタビューではお互いに話に夢中になって自分の苦しかったことを腹を割って話すことができよかったと思う。私も今まで誰にでも話せなかった苦しかったことを日本に来て日本人とこのように腹を割って話せたのが不思議だ。そして、お互いの気持ちが通じたようで本当によかったと思う。私はあまり日本語を話すのがうまくないと思うが、言葉では伝えられないことを心で伝えられたような気がして本当に感心した。

6. 終わりに

このインタビューの結果を通して、人々は自分の環境においていろいろな仕事をしていることがわ

かった。そして、その仕事は自分の夢に踏まえてずっと続けていることがわかった。自分の夢と関係がある仕事をしている人もいるし、そうではない場合もある。夢と関係がある仕事をしている人はその夢を叶うためにもっと粘り強く自分を鍛えていたし、夢とは関係がなく、自分が出来る仕事をしている人はその中で夢を見つけてやりがいを感じながら維持しているのがわかった。

その中で私が一番感心しながら学んだのは、これから 仕事や夢に向かってどんな姿勢で、どんな思いで進めばいいのかだった。

私一人では自分の仕事や自分の夢を叶えないと思う。周りからの支えがないとできないと思う。Tさんはお客さんから認められ、その認めが自分に対しては支えになってくれる。また、Kさんは自分が願った仕事で他の人にも助けになりながら、社会の中で認められ、それが支えになっている。Sさんは自分の過去の失敗の経験や周りの人からの助言が支えになってくれる。そして最後にNさんは家族の笑顔や愛、Sさんや仲間たちからのいろいろな教えが支えになってくれる。決して自分一人では夢や仕事を続けられないと思う。

ここで私が気づいたのは、それぞれの夢の頂点には必ず人がいるということがわかった。お客さん、自分より弱そうな人、先生や仲間、家族。そして、これはまたその人たちに対しての思いに変わる。感謝の気持ち、助けたいという気持ち、恩返しの気持ち、愛する気持ち。

この気持ちが大きければ大きいほど私は今の仕事や夢のためにもっと頑張れる気がするのではないだろうか。さらにこの思い、つまり、このポジティブな考え方は自分の未来を楽しみながら、今の苦しみを乗り越えられる原動力になるのではないだろうか。

私の夢も結局、他の人とのつながりだと思う。私は今まで夢というのは自分だけのものだと思った。もちろん、どんな夢をみるか、その夢のためにどんな仕事をし、どのように努力するかは自分の次第だが、それを続けるためには必ず周りからのサポーターがないと出来ないことがわかった。

夢というのは、ある意味で、自分から離れて他の人への思いではないだろうか。

おわりに

レポートの著者である、カーチャ・グリコさんと金宣さんは、2009年10月から2010年8月まで、日本語・日本文化研修留学生として秋田大学で学んできました。二人は上級レベルの日本語クラス、留学生と日本人学生が交流する文化のクラス、日本人学生を対象とした専門的なクラスなど、多様な授業に参加しながら、このレポート集に掲載した課題に取り組んできました。

このレポート集の読者は、二人のレポートが「日本語・日本文化」に関するレポートとはかけ離れているのではないかという印象を持たれたかもしれません。二人はそれぞれ仕事と結婚という課題に取り組みましたが、そうした課題は、日本語・日本文化研究留学生の研究課題としては、「武士道と現代の日本企業」「日本人の若者の結婚観」というような形でテーマ化され、文献やアンケート調査から、日本文化論の一端として結論が導かれるのが通常でしょう。

そうした通常の形でまとめられたレポートは、留学生が自身の日本文化論を形成した成果であり、否定すべきものではありません。しかし、こうした課題について、私は、武士道と現代の日本企業の関係や、日本人の若者の結婚観を知りまとめることが、留学生一人ひとりの日本での生活や国に戻ってからの将来にとって、どんな意味があるのかという疑問をもってきました。

たとえば、武士道と現代の日本企業を知ることは、留学生にとってどんな意味があるのでしょうか。いつか日本に就職したとき、スムーズな人間関係を作ることにつながるという意見もあるでしょうが、本当にスムーズな人間関係につながるのでしょうか。あるいはなぜ人間関係はスムーズでなければならないのでしょうか。

実際の間人間関係は、一回一回のコミュニケーションのやりとりから構築されていくものです。その際には、意見の食い違いが必ず出てきます。先の武士道と日本企業の例でいえば、日本企業に勤めて人間関係に問題が生じた場合、「日本企業には日本文化が浸透しているからこういう人間関係になっても仕方がない」とあきらめることは、留学生にとっての問題解決にはなりません。

重要なのは、自分の抱えている違和感を相手に表明すること、表明しようとすることです。日本や日本語を一括して捉える見方は、日本文化はこうだからとか、日本語が自分はいまうまく話せないからとかという理由で、相手と粘り強くコミュニケーションしていこうと

する意欲やコミュニケーションできるのだという自信を奪ってしまうと、私は考えてきました。

したがって、今回の日本語・日本文化研修留学生には、テーマは日本・日本語に関連しなくてもよい、ここ日本の秋田に留学しているということを利用して、自分が本当に考えてみたい課題に取り組んでほしいと伝えてきました。

2009年秋学期には、論文と問題意識の関係についての著書『論文作成デザイン』（細川英雄著）を読みつつ、毎週、その一週間で自分が面白いと思ったこと、経験した印象的なことを語り合いながらテーマを探しました。秋学期の終わりには、それぞれが仕事と結婚というテーマを見つけ、調査の方法を考え、春休みの間に予備的な調査を試みるようになりました。調査の方法としては、一人ひとりにじっくり話を聞いてみるような、インタビューという調査方法を勧めました。アンケートなどの量的方法は少数派を切り捨て、多数派を「真実の姿」として提示することにつながると考えたためです。

2010年の春学期には、予備調査の結果を踏まえ、本格的なインタビュー調査を行いました。その結果をまとめていく間には、インタビューが一問一答式のアンケートに近い形になっているという問題や、一回のインタビューからさらに新しい関心が生まれてくるという問題が起こってきました。カーチャ・グリコさんと金宣さんは、インタビュー結果をまとめ、お互いのレポートを読み合いながら、そうした問題を一步一步解決していきました。

このレポート集に収められた二つの作品は、この二人の一年にわたる取り組みの成果です。いわゆる日本文化論・日本語論とは異質な作品に仕上がりました。二人が行ったインタビューとその結果からは、「いまどきの若い日本人は・・・」とか「日本人の専門職の人は・・・」というような言葉ではくくれない、インタビューされた方々一人ひとりの生活が伝わってくるのではないのでしょうか。ぜひ読まれた方は、牲川 (segawa.class@gmail.com) まで感想をお寄せください。二人に転送します。

私にとって、カーチャさんと宣さんは、留学期間のすべてを通して指導した、初めての日本語・日本文化研修生になります。一年間、二人と考え続けられたのは、非常に幸運な経験でした。ありがとう。

日本語・日本文化研修留学生 課題研究担当
牲川 波都季

2009-2010 日本語・日本文化研修留学生 レポート集

発行日 2010年7月30日

発行 秋田大学国際交流センター
010-8502

秋田県秋田市手形学園町 1-1

電話+81-(0)18-889-2865 (牲川研究室)

著者 カーチャ・グリコ, 金 宣

発行兼編集責任者 牲川 波都季

segawa.class@gmail.com
